

農業による 斑点米カメムシ類の防除対策

金沢営農協議会
JA金沢市
石川県農業共済組合

石川県から「斑点米カメムシ類の多発注意報」が発令されました。

管内で平年を上回る数のカメムシの生息が確認されています。
①農道・畦畔・休耕田の除草、②出穂後の2回防除を徹底しましょう。

① カメムシ防除スケジュールと斑点米による影響について

シラホシカメムシ類、飛翔性カメムシ類の本田侵入盛期（予想、普通期移植の場合）

	7月												8月																														
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19							
ゆめみづほ	←	出穂期	→																																								
コシヒカリ																		←	出穂期	→																							
晩期																																											
コシヒカリ																																											

いずれの品種も出穂7～10日後に防除を実施し、その一週間後にも防除を行う。

※防除の方法や薬剤は、営農などより第5号を参照ください。



カメムシに吸汁されると左図のような斑点米が発生し、落穂等の原因になります。
また乳白等が多いロットに斑点米が同時に多発すると、色選でも一等調製できない場合があります。

斑点米

② 斑点米カメムシ類の特徴

カメムシ調査捕獲 トツブ5

1位		実物大	アカヒゲホソミドリカスミカメ	飛翔性カメムシで、体色は緑、触角が淡紅色。稲の出穂に反応して水田に侵入、糞を吸汁。加害する。
2位		実物大	アカスジカスミカメ	飛翔性カメムシで、体は黄緑色で橙赤色の縦条が特徴。稲穂の割れ糞が発生すると吸汁加害する。
3位		実物大	トゲシラホシカメムシ	歩行性カメムシで、体色は淡褐色で黒点特徴。8月上旬に稻穂に集まって加害する。
5位		実物大	ホソハリカメムシ	大型の飛翔性カメムシで、体は茶色。生育期間が長いため、晚植栽培や晚生品種が集中加害を受けやすい。

カメムシ類は、一般的に植物の種子を吸汁しながら、雑草地や水田等を移動しています。稻の穂が出ていない7月上旬頃までは、雑草地に生息して数を増やし、稻の出穂期以降は水田へ侵入して斑点米を発生させます。

今後は、胴割粒、乳白粒や褐色粒の発生防止に向け、登熟期間の飽水管理と適期収穫でどんな天候にも対応できる稻作管理に努めましょう！

刈取りまでの水管理

1 飽水管理の徹底

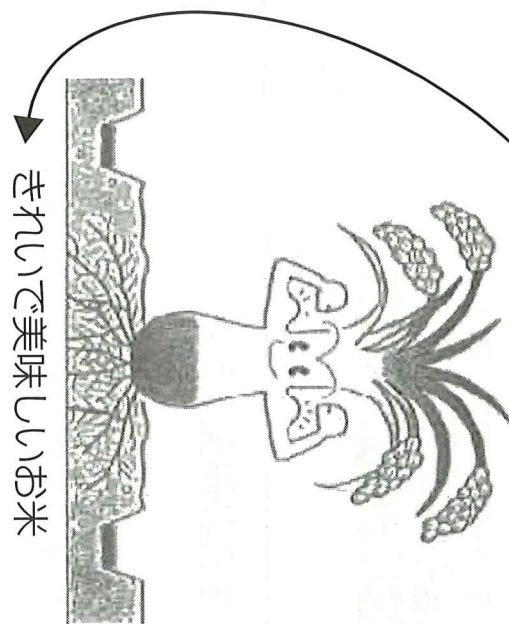
- こまめに通水して、常に土壤に水分を与える、乾き過ぎないようにする。
 - ・出穂10日前から出穂開花期は、イネが最も水を必要とする時期です。
 - ・気温の高い日が続くので、日中の湛水を避け、夕方から通水して根の機能低下を防ぐ。

- ・台風やフェーン現象などの強風時には一時的に通水（湛水）し、風が止んだら速やかに排水する。

2 通水期間の延長 -早すぎる落水は、収量・品質の低下につながります-

刈取りの5日前まで間断通水（飽水管理）を続ける。

○間断通水実施



▶ きれいで美味しいお米

枯れ上がりが早く、胴割粒や基白粒が発生
また、下葉も早く枯れ上がり、倒伏する。

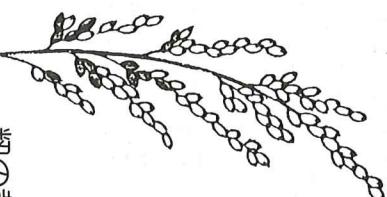
1月からの降水量は平年並みから多く推移していますが、積雪量は少なく推移しました。今後の天候によっては、浇水も考えられますので、限りある用水を有効利用するために節水に努めましょう。

刈取り時期の目安

適期収穫に努め、刈遅れによる胴割粒や褐色粒の発生を防ぎましょう。

1 粒の黄化率で判断

- 1穂の全粒数の80～90%が黄変したとき。
 - 高温年：収穫開始80%、収穫適期85%
 - 平年：収穫開始85%、収穫適期90%



☆刈取り適期の穂



×早期落水

〈刈取り適期の目安〉

穂の黄化率が85～90%になった頃

2 出穂後の日数での判断

ゆめみづほ	出穂後34～38日程度
コシヒカリ	出穂後37～42日程度

★ 畦畔等の除草は、収穫直前まで行わないこと！ ★
うまい・きれい金沢産米づくり運動実践中！

出穂から刈取りまでの1ヶ月以上は①乾かさない②ずっと溜めない③すぐ落とさない